

# 2022年『胃と腸』賞授賞式

2022年『胃と腸』賞の授賞式が2023年9月20日に開催された。本賞は『胃と腸』誌に掲載された論文から、年間で最も優れた論文に贈られるもの。授賞式は、ウェビナー形式の早期胃癌研究会にて行われた。

今回、対象論文145本の中から、松枝克典氏(岡山大学病院, 論文執筆時: 大阪国際がんセンター)らによる「胃神経内分泌腫瘍(NET)・神経内分泌細胞癌(NEC)の内視鏡診断」[胃と腸. 2022; 57(7): 900-11.]が受賞した。松枝氏には賞状と盾が授与され、授賞式当日は『胃と腸』編集委員長の松本主之氏(岩手医大)から選考経過の説明とお祝いの言葉が述べられた。



◆胃神経内分泌腫瘍と神経内分泌細胞癌の臨床病理学的特徴を比較検討 ●写真 松枝克典氏

胃の神経内分泌腫瘍(neuroendocrine tumor: NET)は一般的に低悪性度の経過をたどる予後が良い腫瘍である一方、神経内分泌細胞癌(neuroendocrine carcinoma: NEC)は早期より転移を来す予後不良の高悪性度癌である。胃においてNECとNETは全く異なる性質の腫瘍であるため、悪性度が高いNECは、NETまたは一般型胃癌とも厳密に区別しなければならず、内視鏡所見に基づく鑑別診断と、適切な部位から採取した生検組織に免疫組織化学染色を積極的に行うことが求められている。

今回の松枝氏の論文は、2005~21年までに大阪国際がんセンターにて胃癌変に対して生検、内視鏡的切除あるいは外科手術を施行した症例の中から、病理組織学的にNETまたはNECと診断された37例を対象に、内視鏡像における臨床病理学的特徴を検討したものである。結果、NECは進行癌が多く、肉眼型分類では大部分が2型であった。表在型の場合も陥凹性病変や潰瘍を伴う割合が高く、病変辺縁部に粘膜下腫瘍様の立ち上がりを伴う症例が多かった。また、NBI(Narrow Band Imaging)拡大観察では不規則な微小血管構築像や、微小血管がみられないことが特徴的な所見であった。特に、不規則な微小血管構築像においては蛇行が乏しく、ネットワークを形成しない不整血管が1本1本ちぎれたようにまばらに存在している所見であった。このことから、内視鏡所見からNECを疑う場合は、NBI拡大観察を併用することにより適切な部位からの生検組織の採取が可能となり、治療前の確定診断に近づく可能性が示唆された。

松枝氏は受賞のあいさつで、本論文の先行研究者である中平博子氏(星ヶ丘医療センター)、内視鏡画像診断の指導を受けた上堂文也氏(大阪国際がんセンター)らに感謝を述べ、喜びを語った。

\*授賞式の模様は『胃と腸』誌(第59巻2号)にも掲載されます。

# 心の不調に対する「アニメ療法」の可能性

パントー・フランチェスコ 慶應義塾大学病院精神・神経科学教室

現代社会において心のケアが大きな課題であることは誰の目にも明らかです。本連載では、文化精神医学の観点から心の不調についての考察を行った上で、そうした不調に対処するための物語療法、ひいては筆者が新たに提唱する「アニメ療法」を紹介します。イタリア出身の精神科医である筆者から見た日本アニメの可能性とは。

## 第7回 物語療法の手法①——映画療法について

今回は、物語を用いたセラピーの一つである映画療法(シネマセラピー)をご紹介します。映画療法は、アニメ療法を構築するに当たっての基盤の一つです。個人の症状に適した映画作品をカウンセリング現場に導入するという形で、米国の心理学者 Gary Solomon が開発した手法です。なお、映画療法のアプローチの包括的な分類や有効性に関する合意はなされていません。

映画やビデオの上映は、「第三者」の視点を通して患者に自身の困難に対する包括的な理解を促します<sup>1)</sup>。スクリーンに映し出される登場人物は患者と同じ問題に直面し、それに対処する新しい対策方法を提示します。そのため、どの作品を選ぶのかについては慎重にならなければなりません(悲観的な内容ではなく、建設的な視座が得られる作品を選ぶなど)。

映画療法においてはセラピストも同じ作品を鑑賞してからセラピーに臨み、そのことは「治療同盟」(therapeutic alliance)の強化にも役立つとされます。同じ作品を鑑賞して「共通の語彙」<sup>2)</sup>を作ることで、同じ目線で患者と話し合うことが可能となるわけです。それにより、患者は信頼、安心、親近感といった感情をセラピストに対して抱くようになるでしょう。

Dermer らは、映画療法の3つの段階として以下を挙げています<sup>3)</sup>。①アセスメント: セラピストが患者の悩みや治療目的を特定し、それらに合致しかつ患者が楽しめる映画を選ぶ、②インプリメンテーション: セラピストが患者に映画を観せ、なぜその映画を選んだかを理解させる、③デブリーフィング: 映画観賞後、セラピストと患者は同じレベルの知識を持って、映画から参考にしてできる要素を掘り下げる。

映画療法の主な段階を4つとして提唱する研究者もいます。例えば Jeon は以下を挙げています<sup>4)</sup>。①同一化: 登場人物の行動や目標から、その人物と同一化しようとし、登場人物の気持ちや感情に気付く、②カタルシス: 登場人物の体験を通して学ぶ、③洞察: 登場人物の体験を内面化し、自分の体験との間につながりを作り、自身が置かれた状況に気付く、④一般化: 物語を鑑賞したことで孤独を感じづらくなり(同じ悩みを持つキャラクター)、自分と登場人物の類似を理解する。

いずれにしても、こうした多段階のプロセスを経て、患者は困難に対して前向きに行動を検討できるようになります<sup>5)</sup>。つまり、映画の内容を比喩的に用いることによって、自己探求と変化を促進するのです<sup>1)</sup>。映画で描かれる内容は、患者の現実をそのまま描写したものではなく、隠喩的に描写したものでなければならぬと考えられます。Heston らによると、映画において「効く内容」とは以下の3つです<sup>6)</sup>。(1) 映画の文字通りの筋書き、(2) 文字通りの筋書きを超えた一般的なメタファー(比喩)、(3) 患者自身のメタファー(患者が映画に込める意味から生まれる比喩)。

映画療法には、臨床において特定の症状に対して効果を発揮した実績があります。例えば、Marsick の研究では、親の離婚を経験した子どもは、別離や離婚に関する映画を見た後、自分の感情や状況に対する意識が高くなりました<sup>7)</sup>。また Bierman らは、法的・家族的問題を抱えた少女を治療するために映画療法を用い、家族の問題に対する理解だけでなく、治療の受け入れや協力の向上を示しました<sup>8)</sup>。他にも、自閉スペクトラム症<sup>9)</sup>、統合失調症<sup>10)</sup>、不安<sup>11)</sup>、認知症<sup>12)</sup>、神経性食欲不振症<sup>13)</sup>、さらには介護者のケア<sup>14)</sup>や学習障害者<sup>15)</sup>に対しても使用され、効果を発揮しています。

### 参考文献

- Berg-Cross L, et al. Cinematherapy: theory and application. *Psychother Priv Pract.* 1990; 8(1): 135-56.
- Sharp C, et al. Cinematherapy: metaphorically promoting therapeutic change. *Couns Psychol Q.* 2002; 15(3): 269-76.
- Dermer S, et al. Utilizing movies in family therapy: applications for individuals, couples, and families. *Am J Fam Ther.* 2000; 28(2): 163-80.
- Jeon KW. Bibliotherapy for gifted children. *Gift. Child Today Mag.* 1992; 15(6): 16-9.
- Stamps LS. Bibliotherapy: how books can help students cope with concerns and conflict. *Delta Kappa Gamma Bull.* 2003; 70: 25-9.
- Heston ML, et al. Movies as metaphors: a counseling intervention. *J Humanist Educ.* 1997; 36(2): 92-9.
- Marsick E, et al. Film selection in a cinematherapy intervention with preadolescents experiencing parental divorce. *J Creat Mental Health.* 2010; 5(4): 374-88.
- Bierman JS, et al. Group cinematherapy as a treatment modality for adolescent girls. *Resid Treat Child Youth.* 2003; 21(1): 1-15.
- J Autism Dev Disord.* 2015 [PMID: 24573335]
- BMC Psychiatry.* 2015 [PMID: 25924784]
- J Clin Psychol.* 1974 [PMID: 4856701]
- J Am Geriatr Soc.* 2013 [PMID: 23672549]
- Gramaglia C, et al. Cinematherapy in the day hospital treatment of patients with eating disorders. Case study and clinical considerations. *Arts Psychother.* 2011; 38(4): 261-6.
- Psychiatr Serv.* 2011 [PMID: 22193793]
- J Learn Disabil.* 2014 [PMID: 22745196]

# 産婦人科ベッドサイドマニュアル 第8版

青野 敏博, 苛原 稔, 岩佐 武 ● 編

B6変型・頁528  
定価: 7,480円(本体6,800円+税10%) 医学書院  
ISBN978-4-260-05107-1

● 評者 大須賀 稜  
東大大学院教授・産婦人科学

待ち望まれた『産婦人科ベッドサイドマニュアル 第8版』がやっと出版された。

産婦人科医必携の書として長年親しまれている『産婦人科ベッドサイドマニュアル』の第8版では最新の産婦人科学に即した改訂が行われており、さらに親しみやすい書となっている。1991年からの歴史を誇る本書がこれまで版を重ねて人々に愛されてきた理由は、常に時代に即した必要とされる内容が適切に提供されてきたからである。本書はとても読みやすいのみならず、単なるハウツーにとどまらず簡潔な中にその背景知識が読み取れる類いまれなるマニュアルである。

全ての執筆者が徳島大の関係者であることは大きな利点であり、単に徳島大の伝統を反映しているだけではなく、高度な医療から地域医療まで幅広く同じポリシーのもとで行ってきた臨床の良さが如実に表れている。どの1項目をとっても科学的根拠に基づいた最新の臨床指針が的確に示されている。新たな項目では最先端の診療内容から必要なものが過不足なく選ばれており、まさに日々の臨床に直結した書

籍である。Side memoは楽しく読めるテーマが満載されており、そこだけ読んでも知識が大きく広がる構成である。

本書は白衣のポケットに入れて持ち歩くのにも適しているが、病棟、外来に必ず一冊常備すべきで、大学などでは研究室に常備しておいてもさまざまな場面で役立つことは間違いない。目次をめくってみると、腫瘍、生殖内分泌、女性医学、周産期と実地臨床に即した項目立てになっており、探したいことがすぐに見つかる。図表は充実しており字の大きさも見やすく配慮されている。フローチャートが多数掲載されており、実際の臨床ではフローチャートに沿って症例を取り扱っていると正解にたどり着けるようになっており、初期研修医、専攻医にとってはとてもありがたい。

このような優れた書籍を育てて来られた青野敏博先生、苛原稔先生、岩佐武先生の歴代の教授のご努力と、医局員の先生方のご協力に敬意を表したい。現在、産婦人科は激動期を迎えているが、本書が進むべき方向を照らす松明として広く使用されることを願っている。

## 本書が愛されてきた理由

# 胃と腸

2024年2月号 Vol.59 No.2

# 大腸ポリープのすべて

- 【序説】大腸ポリープの分類と取り扱い
- 【主題】大腸上皮性ポリープの鑑別診断/大腸非上皮性ポリープの鑑別診断
- 【トピックス】大腸過形成性病変の臨床および分子病理学的特徴
- 【主題症例】隆起型粘膜脱症候群に合併した早期直腸癌/大腸MALTリンパ腫

● 通常号定価: 3,520円(本体3,200円+税10%)

医学書院



# Gastropedia

消化器にかかわる医療関係者のために

医学書院



ガストロペディアで新連載開始!!

# 腹壁ヘルニア診療のフロントライン

—Web症例検討によるエキスパートの視点—

担当患者さんの腹壁ヘルニアでお困りの外科医の方へ